

先日は、手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。観察会のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回3月の「てがたん」は3月12日(土)で、「春を探そう」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは3月5日(水)です。よろしくお願いいたします。

2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→高野山斜面林→桃山公園→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- 観察日時/天気 2011年2月12日(土) 10:00~12:00/曇り
- 参加者 11名(一般9名、子ども2名)
- 市民スタッフ 9名(小泉伸夫、染谷迪夫、竹本周平、弘實さと子、古川克彌、松村定雄、保田行弘、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 2名(塩田いづみ、村松和行)

観察記録 - 2月に観察した生き物リスト-

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ、アオサギ/カモ科：カルガモ、コガモ、オナガガモ、ミコアイサ/クイナ科：バン、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ハト科：キジバト/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/モズ科：モズ/ヒタキ科：ジョウビタキ/ツグミ科：ツグミ、アカハラ、シロハラ/ウグイス科：ウグイス/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ/アトリ科：カワラヒワ、シメ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：コバクチョウ、ドバト

【昆虫・クモ】

カマキリの仲間：ハラビロカマキリ(卵のう)/カメムシの仲間：ツノロウカイガラムシ、イセリヤカイガラムシ

【キノコ】 アラゲキクラゲ

【花】

キク科：ノゲシ/シソ科：ホトケノザ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、ツタバウンラン/アブラナ科：ナズナ、ミチタネツケバナ、タネツケバナ/ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ/ツバキ科：カンツバキ(植栽)/バラ科：ウメ(植栽)

【ロゼット】

キク科：オニノゲシ、オニタビラコ、ヒメジョオン、ハルジオン、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ハハコグサ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ブタナ、セイタカアワダチソウ、カモミール、キツネアザミ、ヒメムカシヨモギ/アブラナ科：ミチタネツケバナ/アカバナ科：メマツヨイグサ、アカバナユウゲショウ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/キンポウゲ科：タガラシ/フウロソウ科：アメリカフウロ

【冬芽】

クマツヅラ科：クサギ、ボタンクサギ/スイカズラ科：ニワトコ/カバノキ科：イヌシデ/マメ科：クズ、ニセアカシア/アジサイ科：アジサイ/カツラ科：カツラ/ニシキギ科：マユミ/ブナ科：コナラ、クヌギ、シラカシ/ユキノシタ科：ウツギ/ハンノキ科：ハンノキ/ヤナギ科：ネコヤナギ/ニガキ科：ニワウルシ/ウルシ科：ヌルデ/スギ科：メタセコイヤ/マタタビ科：キウイフルーツ(植栽)

2月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「冬越しする生き物」でした。てがたんコースでは初めて桃山公園まで足を運びました。

観察は植物の冬芽やロゼットを中心に行いました。昆虫ではカイガラムシを観察しました。参加者の方も普段、あまり注目されないカイガラムシの冬越しに、興味津々の様子でした。



今回の案内人：古川克彌さん



てがたん下見で観察したヤマブキの冬芽（鱗芽）



市販のキクラゲでよく利用されるアラゲキクラゲ



ニワウルシは外国では街路樹や庭木によく利用される



オニタビラコのロゼット 春の七草ではありません！

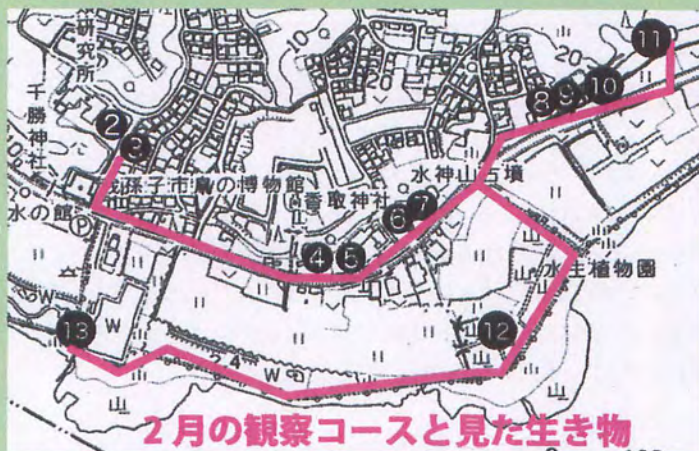


ナガミヒナゲシのロゼット 定番の道端に咲く外来種



メタセコイアの冬芽

メタセコイアの冬芽は芽鱗葉に包まれた鱗芽。冬芽は下向きにつくのが特徴で、枝が落ちた痕の下にできます。



2月の観察コースと見た生き物



ニセアカシアとキウイの冬芽

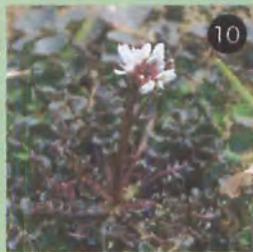
ニセアカシアは葉痕の中に冬芽が隠れている隠芽（右）。

キウイフルーツは膨れた部分に冬芽が半分隠れている半隠芽（左）。

*写真提供：古川克彌さん



花の様にみえるマコミの実 四裂した果皮の中に赤い種子がみえる



ミチタネツケバナの花 寒さが過ぎても葉はロゼット状に集まっている



バナナのロゼット 葉の切れ込みと毛が多いのが特徴



ハハコグサのロゼット 葉の白さや毛からわかりやすいロゼットです



オノノゲシのロゼット 小さくても葉に触るとチクチクします

カイガラムの世界

*1写真提供：古川克彌さん*写真引用：「甲虫」山と渓谷社

今回のてがたんで、参加者のみなさんの興味を一際そそっていた(?)イベリヤカイガラムシ。

イネ科以外の多くの植物（主に柑橘類）につき、すす病を発生させる害虫です。古川さんのお話にもあったように、柑橘類を輸入した際に日本に広がり、それを防除するためにオーストラリアから天敵であるベダリアテントウムシを移入しました。これは日本で初めての生物農薬であり、天敵を使った防除の最初の例とされています。



イセリヤカイガラムシ



*1

↑引っくり返すと脚と触覚が確認できる



*2

ベダリアテントウムシ

体長3~4mmの小型のテントウムシ。イベリヤカイガラムシの幼虫・成虫どちらも捕食し、その他のカイガラムシも捕食する。

でたがんにご参加ありがとうございました。次回の参加もお待ちしています！